国際医療人材を現場に　学生から社会人まで

海外トップ校と提携　教育水準 相互に向上

職業教育 高評価の要因を聞く

滋慶学園グループ　総長　浮舟 邦彦氏

滋慶学園グループは「職業教育を通じて社会に貢献する」をミッションとし、「実学教育」「人間教育」「国際教育」の三つを建学の理念に掲げ、これまで社会に優秀な人材を数多く輩出してきた。リーマン・ショック以降の厳しい景況においてもグループ校の就職率は高く、特に大阪滋慶学園の各校の就職率は、ここ数年間ほぼ100%を達成している。そこで、グループを率いる浮舟邦彦滋慶学園グループ総長に、就職率や国家試験合格率の高さを保ち続ける教育の秘訣（ひけつ）などについて聞いた。

（聞き手は取締役大阪支社長・曽根洋一）

―まず、滋慶学園グループの教育に関する基本方針やシステムについて聞かせて下さい。

「我々は三つの建学理念の下で職業人を育成している。そのもとで専門教育とキャリア教育という形で行なっており、専門教育はそれぞれの業界に直結し、即戦力として活躍するための高度な知識・技術や国家資格の取得を目指している。キャリア教育は社会人基礎力や主体性などを身に付けるいわば人間教育。この両方の教育を多様な教育システムと教職員への研修制度で実現している」

―教職員に対する教育で他校と違って特徴的なことは何ですか。

「ほかの学校でもやっているが、我々は地域、校数、教育ジャンルなど多岐にわたっているのが特徴。17年前に設立された滋慶教育科学研究所で組織的・体系的に教職員の教育力や運営力の向上を図っている。ここまでシステマチックに取り組んでいるケースは少ないと思う」

―国際連携や海外での職業教育の取り組み状況をどう見ていますか。

「医療職もそうだが、職業教育は世界レベルが求められる。多くの海外のトップ校との提携で互いに教育レベルを高めている。グループ全体では毎年5000から6000人が海外研修に出る。また、近年アジア、特に中国や韓国、ベトナムなどでは職業教育が注目されており、アジアを中心に1000人を超す留学生を受け入れている。年々増えており、最近は教職員の研修も加わった」

―教職員が研修に来られる理由については。

「教職員のみなさんは職業教育だけでなく、学校の運営方法やマネジメントといった面も学びに来ているとみている。大学の教育は学問中心だが、我々は仕事、さらにいえば実践現場から教育にアプローチしている。きめ細やかな『教育と職業との橋渡し』に、教職員の方々は関心を持っておられるようだ」

―国内では大卒の入学者も多いようですね。

「大阪滋慶学園では入学者の約3割が大学生や大卒社会人だ。ピーター・ドラッカーは『近代工業社会から、21世紀は多様性に富む知識社会になる』と語った。知識労働者やスペシャリストの社会となりつつあり、彼の予言通りになってきた」

―4月の大学院大学開校で、学生の卒業後の支援体制も充実します。

「産学協同による業界との強いパイプ作り、焦点を絞った個別教育の充実、卒業生への生涯教育支援などに今後、さらに力を入れる。これまでのこうした取り組みが医療の質と安全を研究する大学院修士課程の形で結実した。来年4月から大阪滋慶学園で准看護師を対象とした通信教育も始まる。大阪滋慶学園として初の試みだが、生涯教育にもつながることから楽しみにしている」

■ プロフィル ■

うきふね・くにひこ　64年（昭39）関西学院大法卒。76年新菌会常務理事、83年滋慶学園理事長、87年大阪滋慶学園理事長、95年米フロリダ州立ウエストフロリダ大より国際教育名誉博士号授与、01年日本医療保険事務協会理事、09年米コロンビアカレッジシカゴから人文科学教育名誉博士号授与。大阪府出身、70歳。

即戦力育成が奏功

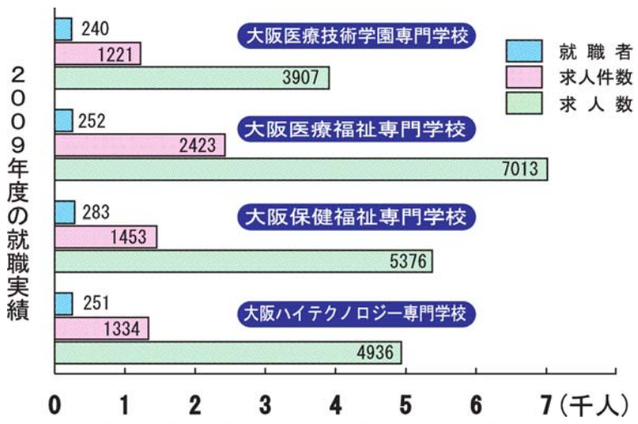
大阪滋慶学園の4校　就職、好調を維持

大阪滋慶学園4校の就職率はほぼ100%。就職先は大阪大学医学部附属病院をはじめとする医療機関が半数以上を占め、福祉・児童施設、医薬品メーカー、医療機器メーカーが多い。各産業界で即戦力となる知識や技術を身に付け、成長産業へ人材を送るという確固たる戦略が奏功し、求人倍率が16―27倍（2009年度）というのも、高い就職率を維持する要因となっている。

ほかの専門学校とは一線を画した就職活動を強固に支援する「キャリアセンター」の存在も学生にとっては心強い。センター長を含む専任スタッフ10人が、日々就職先とコンタクトを取っており、業界とのアクセスは年間約2000件にのぼる。そこで得た情報を即座にフィードバック。OB・OGの在職先や定着率のデータも併用することで、より精度の高い就職先の選定を行っている。

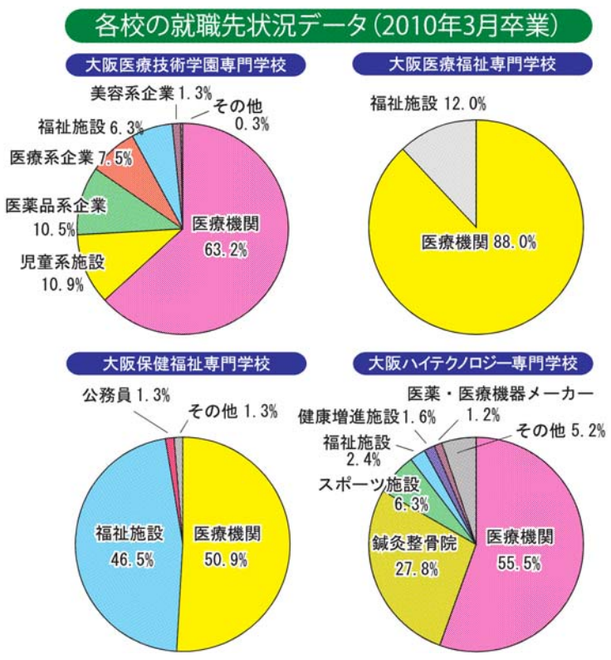
同時に就職カウンセリングや模擬面接など、小回りの利いた個別指導体制を確立していることも同学園ならでは。これが長年、高い就職率を誇る裏付けとなっている。

さらには、大阪滋慶学園主催で毎年春に開催する「就職フェア」には毎回120を超える企業・団体が参加し、「介護福祉系の学生の就職先はフェアで約60%が決まる」（芦田修司センター長）。今年5月16日のフェアは学園生にとどまらず、広く一般にも開放する予定だ。



求人倍率16―27倍

09年度実績



各校の卒業・課題研究発表から

大阪医療技術学園専門学校

遺伝子変異解析システムWAVEの検討

臨床検査技師科　籠橋 美帆さん　辻井 真理恵さん

遺伝子変異が原因とされる疾患の診断には、現在、ダイレクトシークエンス（DS）法と呼ばれる遺伝子検査が用いられている。ただ、結果が判明するまでに多くの手順が必要で、その上高価な試薬を使用するため、コストが掛かり過ぎるのが現状だ。

こうした課題の解消につながる検査法として、核酸フラグメント解析システム（WAVE）が注目されている。籠橋さんらは、研修先だった国立循環器病研究センターでWAVEの存在を知り、テーマ設定から約2カ月半をかけて臨床検査への応用の可否を検討した。

検査対象には同センターで実験が未着手だった家族性高コレステロール血症の関連遺伝子であるLDLRを選択。実験の結果、検体をそれぞれに適切な温度（至適温度）で加熱すれば、高精度に変異を検出できると分かった。

半面、WAVEにはその至適温度の自動算出機能があるものの、実際の検出温度と必ずしも一致しないという結果も出た。辻井さんは「原因はある程度想定されるが、至適温度については一層の検討が必要」と話す。

一方で、同じ変異を持つ患者同士の検体では、同じ至適温度、検出波形を示したため、家族性の遺伝疾患を発見できる可能性は高いという。WAVEにより従来の遺伝子検査が効率化されれば、多くの患者が早期に治療を始められるなどメリットが得られるようになる。

二人は卒業研究を通して、「当初は研修先の先生との会話についていけず、遺伝子の勉強を基礎からやり直した。国家試験の勉強などもあって両立は困難だったが、これをやり切れたことは、今後の大きな自信につながる」と意気込んでいる。

大阪医療福祉専門学校

多胞性脳軟化症により、運動発達障害を呈した新生児に対するアプローチについて

理学療法士学科　関口 歩さん　落合 祐一郎さん　中阪 吉宣さん　中西 亮介さん　永田 徹さん　松岡 秀和さん　三浦 学さん

仮死状態で生まれることが原因で脳に障害を持つ生後8カ月の男児に対し、理学療法を使って運動発達の遅れを取り戻すことに取り組んだ。

生後8カ月の子供であれば、通常「お座り」できる時期だが、この男児は、まだ首も据わっておらず、生後1―2カ月程度の発達しか見られなかった。

一般的に、赤ちゃんの首が据わるのには、順序があり「物」に興味をもち、手で触ったり、なめたりする「探索活動」の出現が必要となる。さらに左右対称を認識する能力の「正中位指向」を獲得し、肩関節周囲筋をバランスよく発達させる必要もある。

今回は首が据わることを目標に約2カ月間、男児の好きな音の出るオモチャを使って視覚や聴覚に刺激を与えるとともに、口や唇への刺激、両手両足をすり合わせる運動に取り組んだ。

その結果、外部環境へ興味を持つようになり、自分で手を動かしてオモチャを触るなどの「探索活動」が見られるようになった。首が据わるまでには至らなかったが、以前よりも手を動かして口などを触る回数が予想以上に増えた。左右も認識でき、「正中位指向」も獲得させることができた。

理学療法を小児リハビリに用いることで、少しずつ正常発達に近づけることができた。さらには、子どもは成長・発達するため、これに応じた理学療法を施す必要性もわかった。

赤ちゃんのリハビリのため、「言葉を理解してもらえず、思うようにならない」苦労をした。一日の大半を赤ちゃんの両親と一緒に過ごすので、「信頼関係を築き、リハビリに協力してもらう重要性も感じた」と、実体験から多くを学んだようだ。

大阪保健福祉専門学校

医療費明細書発行についての調査と考察

医療秘書・情報科　上村 麻美さん　大浦 亜友さん　川上 未来さん　北野 良佳さん　左近 由樹さん　中川 あさ美さん　保枝 茜さん　吉村 理紗さん

2010年の法改正で、医療点数の算定内容を記載する「医療費明細書」の発行が医療施設で原則義務化された。情報の透明化が狙いだが、発表者らは現場の実習のなかで、患者らの明細書に対する関心が薄く、施設によって明細書発行の対応にも"温度差"があると感じた。そこで、現在の明細書の浸透度や利用の現状などを調査した。

関西の医療施設15カ所を対象に、明細書について調査。回答した13施設すべてで明細書を発行していたが、このうち約30%の施設は患者全員に発行しており、残りは希望者だけへの発行だった。

希望者に発行する施設でも、会計時に「不要であればお申し付け下さい」と、あえて不要者を募る聞き方をしている施設は、発行率83・3%と高かった。一方で、単に「必要であれば―」と説明した施設は同0・6%となり、少しの対応の違いで大きな差が出た。

また、発行によって患者からの質問が増えた施設は60%を超え、診察内容への高い関心がうかがえた。ただ、質問は診療費や専門用語に関するものが多く、現状の明細書内容では患者の理解を深めることは難しいとみられる。このため、専門用語の解説や大きな文字で分かりやすくするなど、患者本位の明細書が必要との結論に達した。

発表者らは全員、医療施設への勤務が決まっている。今回の成果を「すぐに現場で反映させるのは難しい」とは感じつつも、「患者の立場でのアナウンスを心掛け、分かりやすい明細書作りへの取り組みも今後、勤務先でチャレンジしたい」と、熱い思いを抱いている。

大阪ハイテクノロジー専門学校

大腸菌と黄色ブドウ球菌に対する精油の抗菌効果の検証

バイオテクノロジー学科　森本 一優さん　小谷 彩夏さん　田中 幸恵さん　中川 智幸さん　中川 唯さん　小島 大亮さん　星山 冬樹さん

ハーブから抽出するユーカリなどの精油は、体調改善効果があるとして医療や美容、リクラゼーションなどの分野で幅広く用いられている。そこで、抗菌・抗ウイルスへの関心が高まる中、これら精油を日常生活向けの抗菌用品として利用することを目的に、数種の精油の抗菌効果について、大腸菌と黄色ブドウ球菌を使って検討した。

微生物（菌）は増殖すると、コロニーと呼ばれる目に見える菌塊を形成する。このコロニー数が100個程度形成するように調整した菌希釈液を菌の培養に用いるLB培地（固形）に塗沫した。さらにLB培地を入れたシャーレを上下反転させ、蓋（ふた）側にユーカリ、ローズマリー、クローブ由来の精油を適量しみこませたカット綿を置き蒸散。37度Cで一晩培養しコロニー数を計測した。

この結果、黄色ブドウ球菌に対する抗菌効果が強く見られた。ユーカリ、ローズマリー共に含浸量35マイクロリットル以上ではコロニー数をゼロに抑えた。

ただ、クローブでは含浸量500マイクロリットルでもゼロにならなかった。一方、大腸菌に対しては3種の精油とも黄色ブドウ球菌ほどの効果は見られなかった。

精油の種類の違いによって結果が異なるのは、抗菌作用を持つ成分構成の違いと思われる。菌による結果の違いは、グラム陰性菌である大腸菌の場合、外膜への浸透性が悪く細胞膜まで到達できなかったからだと考えられる。

抗菌をうたう精油添加製品は多いが、森本さんらは「一般生活と同様な環境、つまり精油を蒸散させて抗菌活性を研究した例が少なかったことが調査のきっかけ」と話す。評価方法も定まったものがなく手探りでの作業だった。精油の抗菌効果は希釈剤のエタノールの作用との見方もあったが、精油自体の効果が確認できた。

大阪滋慶学園 各校の海外研修実施先

◆大阪ハイテクノロジー専門学校
（米国）ロマリンダ・ユニバーシティ▷シティカレッジ・オブ・サンフランシスコ▷セリトス・カレッジ
（中国）上海中医薬大学▷上海医療器械高等専科学校▷廣東医学院▷廣東薬学院▷深圳職業技術学院▷北京第二外国語学院

◆大阪保健福祉専門学校
（米国）ゴンザガ・ユニバーシティ▷ロマリンダ・ユニバーシティ▷スポケーンフォールズ・コミュニティカレッジ▷シティカレッジ・オブ・サンフランシスコ

◆大阪医療福祉専門学校
（米国）サウスウエスターン・カレッジ▷ロマリンダ・ユニバーシティ▷ポートランド・コミュニティカレッジ

◆大阪医療技術学園専門学校
（米国）サウスウエスターン・カレッジ▷シティカレッジ・オブ・サンフランシスコ▷クローバーパーク・テクニカル・カレッジ▷ユニバーシティ・オブ・レッドランズ▷ピアース・カレッジ
（中国）廣東薬学院▷廣東医学院▷深圳職業技術学院▷上海中医薬大学▷上海医療器械高等専科学校▷北京第二外国語学院

学校法人 大阪滋慶学園 専門学校5校のご案内　Jikei Group

●医療秘書・情報学科（昼間2年制）
●医療心理科（昼間3年制）
●薬業科（昼間2年制）
●臨床検査技師科（昼間3年制）
●言語聴覚士学科（昼間3年制）
●言語聴覚士学科（昼夜開講2年制※）
●鍼灸師学科（昼間3年制・夜間3年制）
●鍼灸健康美容学科（昼間3年制）
●東洋医療技術教員養成学科（昼間2年制）
●薬業科（夜間1年制）
●専攻科（昼間1年制）
※4年制大学卒業以上

学校法人 大阪滋慶学園　厚生労働大臣指定校　日本病院会認定校
大阪医療技術学園専門学校
〒530-0044　大阪市北区東天満2-1-30 TEL(06)6354-2501
FreeDial 0120-78-2501　http://www.ocmt.ac.jp

●臨床工学技士科（昼間3年制・夜間3年制）
●臨床工学技士専攻科（昼間1年制）
●バイオサイエンス学科（昼間3年制）
●スポーツ科学科（昼間2年制）
●鍼灸スポーツ学科（昼間3年制）
●柔道整復スポーツ学科（昼間3年制）
●柔道整復師学科（昼間3年制・夜間3年制）
●ロボット学科（昼間2年制）
●日本語学科（昼間1年制・昼間1.5年制）

学校法人 大阪滋慶学園　厚生労働大臣指定校　大阪府認可
大阪ハイテクノロジー専門学校
〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43(新大阪駅前) TEL(06)6392-8119
FreeDial 0120-33-8119　http://www.osaka-hightech.ac.jp

●看護学科（昼間3年制）
●社会福祉科（昼間4年制）
●介護福祉科（I部2年制・II部3年制）
●医療秘書・情報科（昼間2年制）
●保健保育科（昼夜開講2年制）
●精神保健福祉科（夜間1年制）
●社会福祉専攻科（夜間1年制）
●専攻科［医療秘書・情報専攻］（昼間1年制）

学校法人 大阪滋慶学園　厚生労働大臣指定校
大阪保健福祉専門学校
〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-47(新大阪駅前) TEL(06)6396-2941(代)
FreeDial 0120-128-294　http://www.ochw.ac.jp

●診療情報管理士学科※1
［診療情報管理士コース］（昼間3年制）
［医療ソーシャルワーカーコース］（昼間3年制＋専攻科1年制）
●理学療法士学科（昼間3年制・夜間4年制）
●作業療法士学科（昼間3年制・夜間4年制）
●視能訓練士学科（昼間1年制・昼間3年制※2）
●言語聴覚士学科（昼間2年制）
※1平成24年4月設置計画中
※2修業年限変更計画中

学校法人 大阪滋慶学園　厚生労働大臣指定校
大阪医療福祉専門学校
〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-14(新大阪駅前) TEL(06)6393-2288
FreeDial 0120-1298-59　http://www.ocmw.ac.jp

●看護学科（昼間3年制）

学校法人 大阪滋慶学園
大阪医療看護専門学校
〒560-0045 大阪府豊中市刀根山5-1-1(刀根山病院隣) TEL(06)6846-1080
FreeDial 0120-57-1080　http://www.ocmn.ac.jp